

PRIMERGY TX150 S8 / TX200 S7

ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY TX150 S8 / TX200 S7 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2015 年 8 月
富士通株式会社

(1) UEFI モードについて

本装置では UEFI モードはご使用になれません。

BIOS 設定の [Boot] メニュー – [UEFI Boot] における “Enabled” 設定はご使用になれません。

[UEFI Boot] を “Enabled” に設定して OS インストールを行うと、インストールに失敗する場合があります。

(2) メモリのミラードチャネルモードについて

下記 BIOS 版数において、ミラードチャネルモード機能をご使用になれます。

ミラードチャネルモードを使用するには、BIOS 設定の [Advanced] メニュー – [Memory configuration] – [Memory Mode] において “Mirroring” を設定します。

(1DPC 構成のみサポートになります。※DPC: チャネルあたりの DIMM 数)

BIOS 版数

TX150 S8: 1.9.0 以降

TX200 S7: 1.10.0 以降

(3) Intel TXT 機能について

本装置では Intel TXT 機能(*1)はご使用になれません。

(*1): Intel TXT 機能(インテル® トラストド・エグゼキューション・テクノロジー)

(4) SR-IOV 機能について

SR-IOV *1 機能はご使用になれません。

*1: Single Root I/O Virtualization

(5) BIOS 設定 [Quiet Boot]について

BIOS 設定の [Boot] メニュー – [Quiet Boot] における “Enabled” 設定はご使用になれません。

(6) ソフトウェア RAID とハードウェア RAID の相違点について

本製品は、ソフトウェアの処理により RAID 機能を実現しております。ハードウェア RAID コントローラと比較すると、機能面・性能面に差がございます。詳細は下記 URL をご参照下さい。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/note03.html

(7) ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2): KB2710558(Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941, KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978, KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

- ・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。
OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。
- ・Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。
SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

- ① デバイスマネージャを起動します。
コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
start devmgmt.msc
- ② 非表示デバイスを表示可能にします。
デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。
- ③ コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。
色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

(8) HDD のオンボード接続について

本装置では、HDD のオンボード Native 接続(RAID 非構成)はご使用になれません。

(9) ServerView Installation Manager (以下、SVIM)による OS インストールについて

DVD ドライブ (PY*DV111)が搭載されている場合、ServerView Suite V10.12.05-Update,または V10.12.07 を使用したインストールが行えない、またはインストール後 OS が起動しない場合があります。また、プレインストールモデルにおいても同様に OS が起動しない場合があります。

以下の手順により、本現象は回避することが出来ます。

BIOS 設定の[Advanced]メニューより、[SATA Configuration]－[SATA mode]を選択し、[AHCI mode]から[IDE mode]へ変更し、設定を保存して終了してください。
その後は、通常通り SVIM を使用したインストールが実施可能です。
インストール後も、SATA mode 設定は、[IDE mode]のまま、ご使用ください。

BIOS の[SATA mode]設定が、既に、[IDE mode]となっている場合、本留意事項による影響はありません。

本設定のデフォルト設定は、[AHCI mode]となっております。BIOS の[Save&Exit]メニューの[Restore Defaults]を実行した場合には、本設定が[AHCI mode]に戻りますので、再度設定変更してください。

(10) SAS アレイコントローラカード(PY*SR2L2)の搭載について

Slot2 に SAS アレイコントローラカード(PY*SR2L2)を搭載する際は、BIOS 設定の[Advanced]メニューより、[Option ROM Configuration]－[Launch Slot 2 OpROM]を"Enabled"に設定してご使用ください。

(11) LTO 装置(PY*LT301/PY*LT411/PY*LT511/PY*LT611)の搭載について

LTO 装置(PY*LT301/PY*LT411/PY*LT511/PY*LT611)をご使用の際は、BIOS 設定の[Advanced]メニューより、[Onboard Devices Configuration]－[SAS/SATA OpROM]－[Intel RSTe]へ変更し、設定を保存して終了してください。

(12) RedHat5.9/6.4 でのオンボード RAID の使用制限について

※本制限は下記の BIOS 版数以降をご利用のお客様には該当致しません。

BIOS 版数

TX150S8: 1.14.0 以降

TX200S7: 1.14.0 以降

RedHat5.9/6.4 をインストールするシステムの場合、下記の構成ではオンボード RAID を使用することはできません。

[対象構成]

- ・オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)
を使用して、オンボード RAID へ下記の SSD を接続して使用する場合
- ・内蔵 2.5 インチ SSD(PY-SD10ND/PY-SD20ND/PY-SD40ND/
PYBSD10ND/PYBSD20ND/PYBSD40ND)

(13) Windows OS または Linux RedHat5.8/6.2/6.3 でのオンボード RAID の使用制限について

Windows OS、または Linux RedHat5.8/6.2/6.3 をインストールするシステムの場合、下記の構成では、以下に指定する版数のドライバを使用してください。

デバイスドライバは富士通のダウンロードサイトより入手可能となっております。

[対象構成]

- ・オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)
を使用して、オンボード RAID へ下記の SSD を接続して使用する場合
- ・内蔵 2.5 インチ SSD(PY-SD10ND/PY-SD20ND/PY-SD40ND/
PYBSD10ND/PYBSD20ND/PYBSD40ND)

[使用するドライバ版数]

- ・Windows Server 2012 の場合: V15.00.0811.2012
- ・上記以外の Windows OS、または Linux の場合: V15.00.0329.2012

[デバイスドライバの入手方法]

以下の弊社 URL より該当の機種を選択し、ダウンロードしてください。

<http://www.fmworld.net/cgi-bin/drvisearch/drviaindex.cgi>

※次の項目のみ選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- ・製品名:[ご利用の機種を選択]
- ・型名:[ご利用機種の型名を選択]
- ・OS:[ご利用のOS名を選択]
- ・カテゴリ:[RAID/その他](*)

(*): カテゴリの選択

- ・Windows の場合、
カテゴリは「RAID」を選択してください。
検索結果の一覧より「ソフトウェア RAID Embedded MegaRAID Windows Driver」を
ダウンロードしてください。

Windows Server 2012 の場合: V15.00.0811.2012

Windows Server 2012 以外の場合: V15.00.0329.2012

- ・Linux の場合

カテゴリは「その他」を選択してください。
検索結果の一覧より、お使いのカーネル版数に該当する最新版ドライバキットを
ダウンロードしてください。

(14) Java 8 update 45(8u45)でのビデオリダイレクション (AVR) 機能の留意について

※本事象は Java8 update 51 (8u51)以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開) を適用した管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



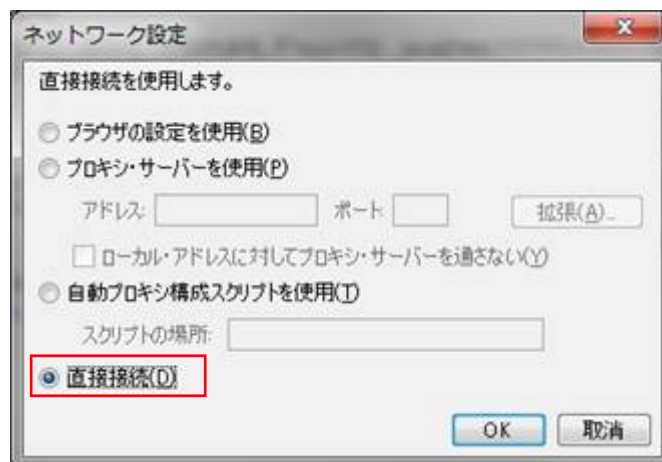
本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
 - ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。
- 注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

なお、本事象は Java 8 update 40(8u40)以前の Java 版数では発生いたしません。

< 回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例 >

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
- (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
- (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
- (4) [直接接続(D)] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



— 以上 —